

# 第1回屋久島移住セミナー「屋久島の歴史・文化について」

富永 英男（NPO緑の風 理事長）

屋久島の南に面した温暖の地「げじべえの里」原、地元では「ハルオ」または「ハロー」と呼びます。その原にある屋久島パイン屋久島支店の敷地内にNPOを設立。7月27日、移住者、地元住民をお招きいたしまして事務所開きを行い、参加者の強い期待を身をもって感じたばかりのところでございます。今回の東京セミナー開催にしましてはご助力くださいました関係各位に厚くお礼申し上げます。

さて、先ほど「げじべえの里」と申しましたが、「げじべえ」とは別名「山五郎」「山のごん太」と呼ばれ、山を大事にしないと突然大きな音を立てたり、歩きまわる音を立て、おーい、おーいと呼びかけて人をおどす屋久島妖精、お化け、山の神なのか、色々な説が伝えられる伝説の地のことであります。

島民は昔、屋久杉神木を「神の木」と呼び、さまざまな形で森に關与して参りましたが、薩摩藩の命により伐採が始まりました。その後、営林署による大量の伐採、戦争中の木材提供という歴史が流れ、そして屋久杉の森は1993年、世界自然遺産に登録され保護されるようになりました。樹齢7,200年ともいわれる縄文杉、水に恵まれ無数の滝、垂道に分布する照葉樹林、豊かな自然の屋久島は、今もなお世界中の人を魅了してやまない美しい自然の姿で、目を見張るばかりではないかと思えます。

屋久島に生まれ育った人々と屋久島に移住され第二の人生をスタートされた皆様の生活や過ごし方はさまざま違っていても、この大自然には、心や想いは一つの言葉にならなくても、強烈な叫びのような「魂しい」を感じることを思えます。

「特定非営利法人屋久島移住ネットワーク・緑の風」(以下、「NPO緑の風」と略す)は、なおその中で移住希望者をサポートし、新緑のさわやかな風を吹き込む決意のもとスタートいたしました。このセミナーを重ねて、現在人口13,761人、6,130世帯の屋久島の歴史、文化、産業、住宅、土地、生活習慣等、移住情報を提供してまいりたいと思います。今回、私は、中学時代を過ごしました屋久島の平内、小島、湯泊の三集落でなる八幡校区のうち、(平内には海中温泉、小島にはジドッチ神父の上陸地と名所がありますが、)太平洋と東シナ海を一望する湯泊集落をご紹介致したいと思えます。

湯泊は、土地のナマリでは「イドマイ」。昔は山側に民家は集中していたと伝えられておりますが、現状の民衆は海側、湯泊川の付近に集中しております。作家、椋鳩十の文学碑が建ち、散策道があり、川沿には亜熱帯ガジュマルが多く、目立つ五本の大木の内でも大きい樹は島一番と地元の自慢でもあります。

初夏にはホタルが飛びかい、海岸には地元で浜湯と呼ばれる湯泊温泉があります。以前は、長い急な坂を歩かなければならず、浴槽も味気のないコンクリートでしたが、綺麗な岩風呂に改修されて、車道、駐車場、休憩所、トイレも整備されて、装いは変わりました。しかし、親しまれてきた温泉の景観は、昔と全く変わっておりません。朝日、夕陽、そして星空と、二十四時間海を眺めて入浴出来る露天風呂でございます。

現在の人口220人、105世帯、七十歳以上が70人という高齢集落です。地域の皆さんは若い家族に住んでほしいと願っております。地域の産業と致しましては、砂糖キビ、サツマイモが昔は盛んに作られていましたが、今はポンカン・タンカン・ビワが生産品として島内でも評価されております。

かつて栄えたカツオ漁、トビウオ漁も専業漁師がいなくなりまして、港には遊漁船のみとなってしまいました。港の大きい岩の上には恵比寿様が祭られ、奥の防波堤を越えると、そこには安全な天然プールがあり、夏場は子供達が楽しく遊んでおります。

県道湯河橋から遠望できる湯河の滝、そこへ行く道はなく、橋近の林道に接続するあたりが最も近くに見える場所かと思えます。林道は湯泊登山道につながっていて、そのルートは伝統の岳参りの道で、今も旧暦の9月10日、烏帽岳(1,614メートル)に参ります。

伝統の行事は、鬼火焚、二十三夜祭、恵比寿祭などとたくさんありますが、湯泊神社大祭(12月23日)は、湯泊地域に伝えられる伝統芸能の笠踊りを始めとして色々な芸能が奉納され、湯泊集落最大の祭でもあります。

高齢化の進む中でも移住者と一体となり、「湯泊音頭」をCDにするなど新しい事にも取り組んでいる湯泊集落。移住されて海のコテージを営み、観光名所で冬場限定で巻き寿司など弁当を自転車で移動販売し、おいしくて安いと大人気で、島の住民も名所に弁当を買いに行くという評判が評判を呼び、テレビにも出演のご主人。ペンション、山荘を経営して、町のイベントなど観光協会や商工会で活躍しておられる方。他にも、ご自分で40坪はあろうかという立派なログハウスを一人で完成させお住まいの方、ドームを親子で建設中の方、2年後の移住と建築を予定して島の大工さんと造成や建物の設計等打合せ中の方、住民の手助けを得て無農薬の野菜作りに懸命の方など。屋久島移住者ほんの一部にすぎませんが、湯泊集落は澄み切った青空の下、うまい空気を一杯吸ってさわやかな汗を流しております。

自然に恵まれた屋久島は、魚類の多さでも日本一といわれておりますが、新種の魚が発見されると南日本新聞で紹介されました。屋久島は丸い島なので、時計を頭に思い浮かべていただきますと分かりやすいのですが、先ほどの湯泊港が7時の地点といたしますと、発見された場所は12時の地点、一湊港の近くとのことです。移住者のお一人が、見たことのない魚数百匹が群れているのに気付かしまして、鹿児島大学研究博物館の木村弘之教授に成魚を送って鑑定を依頼。オーストラリアの研究者が2001年に新種として西大洋で発見した魚であることは分かったが詳しい生態は不明。発見者と大学教授は一年間かけて観察した結果、幼魚から成魚へと成長する過程のほか、屋久島の北部の海を大規模な繁殖地としていることがわかり、本年1月に日本生物地理学会の国際雑誌に論文を投稿。ヤクシマキツネウオと名付けたとの内容です。

このように山、川、海に恵まれた屋久島を、NPO緑の風はセミナーを通して誠の情報を素早く、正確にお伝えしたいと思えます。また、「屋久島田舎暮らし体験ツアー」のポンカン狩り、タンカン狩り、山菜採り、魚釣り、磯もの採り企画などで心豊かな島民とふれあい、ゆっくりと流れる屋久島の時を体験していただき、屋久島のすべてを味わってほしいと願っております。

10月1日、現在の上屋久島町、屋久町の二つの町が合併して屋久島町が誕生いたします。NPO緑の風は、新生屋久島町と一体になり移住支援活動、そして島の活性化に助力して参りたいと思っております。

土民、淳厚にして太古の風あり、夜は戸を閉さず各家相親しみて、疑うことなし、誠に南海の一仙境というべし。次回は屋久島でお会いいたしましょう。心よりお待ちいたしております。

2007年9月29日